

## 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

### 報告書資料 一般 - 109

学校名・団体名	唐津市立平原小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	ふるさと大好き やまびこの子ども

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

本校は唐津市の山間部に位置する全校児童53名の小さな小学校である。学校周辺はハウスマカン栽培が盛んであり、自然環境にも恵まれている。また、同町内には日本三大松原の一つ虹ノ松原が広がっている。児童は純朴で優しく、昔ながら小学生の印象が残っている。しかし、校区内にはコンビニはおろか、商店もない。また、坂道が中心で自転車を乗る平地も無い状況で、不便さを感じている。児童に自分が生まれ育った平原のよさを再認識させ、自分のふるさとや学校を心から愛し、誇りに思う児童を育てたいと今回の実施計画を立てた。

#### 活動報告

##### ①校内ホタル川、メダカ池の復活（6～7月 継続中）

昨年度復活させたホタル川、メダカ池については、2年目の活動として、引き続き5年生児童のお世話により、「メダカの里親プロジェクト」として、全校児童がフィルムケースを用いて、ポケットの中でメダカの孵化を行い、稚魚を大切に育て、7月にメダカ池に全校児童により稚魚の放流を行った。全校の児童及び保護者の方々も復活したメダカ池とホタル川を大変嬉しそうに見ていただいた。夏にはホタルが2～3匹確認された。冬になり池の漏水がわかり補修に向けて生き物の調査をしたところ、30を超えるホタルの幼虫を確認し、保護を行った。この活動を通して、ふるさと平原の自然環境のよさと、小さな命を大切に思う豊かな心が児童に育まれたと感じている。春になったら、新5年生が池のメダカを取り出し、産卵させて「メダカの里親プロジェクト2019」を実施し、全校児童による稚魚の放流を行う予定である。今後は、学校の伝統として10年先も見据えた活動を6年生で提案することとしている。

##### ①春の池掃除



##### ②冬の池掃除（TV取材）



##### ③保護したホタルの幼虫



##### ②全校児童による合唱（6月、10月、11月）

平原小学校の児童は歌うのが大好きである。今年度も関西放送主催の「小さな音楽会」予選にも高学年10名で予選に応募した。結果は、残念であったが全校的に歌を歌いたいという気運は高まった。その他、「浜玉町の文化祭」、学校での「やまびこ集会」そして、数年ぶりに「唐津市児童生徒音楽祭」に出場し、合唱の披露と横笛の演奏を行うことができた。今回も定期的に歌の指導を受けたことにより、格段に歌声が良くなり、児童もそのことを自覚できたため、より生き生きと合唱や横笛演奏に取り組むことができた。

少ない人数ながら、1年生から6年生までが、大きなステージで児童が自信をもって活動に取り組めたことと全校児童が気持ちを一つにしたことにより、学校全体としてよりまとまり、より優しい雰囲気の学校となった。

①浜玉町音楽祭



②唐津市児童生徒音楽祭



③やまびこ発表会



③バルーンリリース「届け仲良しの種」

本年度は、「人権の花 ひまわり」「震災復興のひまわり」500本の栽培を行ってきた。地域の方の協力もあり、大きな花を咲かせ、全校児童がひまわり学校と言って大変喜んでいました。今年度も「人権の花ひまわり」については、いじめ撲滅の願いを多くの人に届けたいと考えバルーンリリースを実行した。実施にいたるまで、2学期からいやな言葉を使わない、友達を悲しい気持ちにさせない努力を行い全校児童が毎朝、交差に感謝して朝掃除に取り組むなど、通産700個のバルーンリリースを行った。「仲良しの種」と命名した種をいただいた保護士の方々、花作りを手伝ってくれた民生委員の方々、学校の近くにある平原保育園の園児のみなさん、介護老人ホームの方々、保護者が一緒になり「仲良しの種」がいろいろな場所で、仲良しの花を咲かしてくれることを期待して大空にバルーンリリースを行った。飛んでいく多くのバルーンに自分たちの気持ちをこめ、本当に一つになった学校を感じる場となった。

①6年生の趣旨説明



②参加した皆さん



③飛んでいくバルーン



活動を通して得られた効果

- ・様々な活動を通して、平原小学校、平原地区、浜玉町と自分たちが生まれ育った地域を見直す機会となり児童は自分たちのふるさとの良さを実感することができていた。また、2年間様々な活動を自分たちで成し得たことにより自己肯定感が高まったと考えられる。また、自分たちが成人しても学校のために何かをしたいという気持ちが生まれてきた。
- ・複数の学年、全校児童が協力して活動する場面を多く作ったことにより、協働で何かを作り出そうとする意欲が今まで以上に高まってきている。さらに、下学年の児童は、上級生になったら同じ活動をするのだという気持ちを持ち、学校の伝統の礎ができあがりつつある。
- ・新聞やテレビなどで、学校の様子が記事として取り上げられ紹介されたことで、児童のみならず、保護者等も学校に対して関心をもち、様々な場面で協力をしてもらい、今後の学校、地域と一体となった活動の足がかりをつくることができた。

